

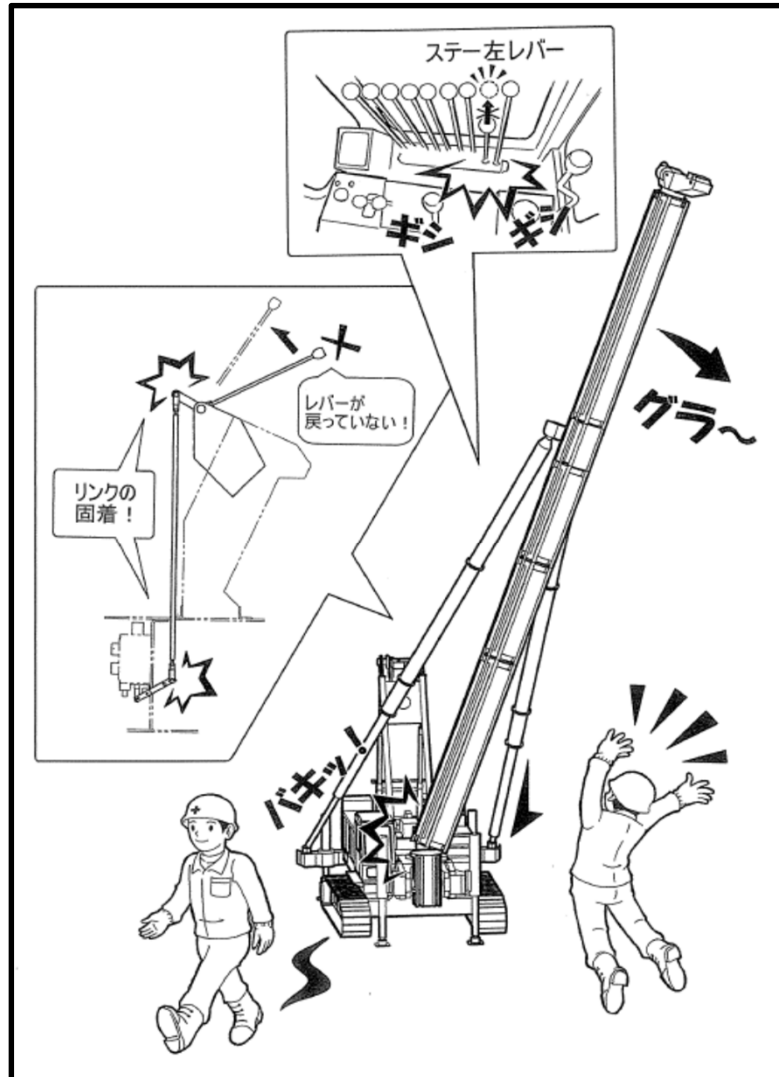
## 事例－8

### 事故内容

### 3点支持式くい打ち機のリーダ破損

オペレータが手元作業を手伝うため、エンジンをかけたまま離席した。ステア操作レバーがリンク部で固着していたため戻り切っておらず、片側のステアシリンダが少しずつ縮小し、リーダが許容角度以上に傾いたことでリーダ根元部が破損した。

- ・ 事故現場 地盤改良工事
- ・ 被災状況 人身無し、物損有り



### 事故原因

- ① 操作レバー回りの点検不良。
- ② オペレータがステア操作レバーが中立に戻ったことを確認していなかった。
- ③ オペレータがエンジンをかけたまま離席していたため、リーダの傾きに対して対応が遅れた。

### 対策

- ① 操作レバー回りは、動きが渋い時には給脂し、直らないときは部品交換する。
- ② 傾斜計でリーダの左右傾斜角度が許容の1.5度を超えないように管理する。
- ③ やむを得ず離席する時は、全レバーが中立状態であることを確認しエンジンを切る。

### 関係資料

- ① 各機種取扱説明書の点検・整備項目
- ② 「ステア操作レバーリンク機構の動作確認と点検について」 (S-02-357)
- ③ 「レバー動作確認及びリボルバの点検について」 (S-02-374)